

令和7年度 第2回千代田区男女平等推進区民会議 議事要旨

日 時	令和7年11月17日(月) 18時30分~20時
会 場	千代田区役所 4階 会議室 A・B
委 員	<p>会 長 坂本 文武 副会長 鈴木 浩子 委 員 金子 雅臣、正木 順子、大井 あんぬ、 不破 めぐみ、戸栗 大貴、大津 志保、永野 達也、 岩崎 徳子、鈴木 清江、畑瀬 由美、森 三千代、中田 治子 事務局 国際平和・男女平等人権課長 加藤 健太郎 国際平和・男女平等人権課 欠 席 岸 啓子、市橋 美紀、緒方 亜美、森井 美木子</p>
次 第	<p>1 開 会 2 議題 (1) 千代田区ジェンダーに関する意識・実態調査結果(速報値) (2) 「第6次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」各目標に対する現状と課題分析 (3) 「(仮称)第7次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」策定に向けた提言の構成 (4) 意見交換(グループワーク)-第7次計画に向けた課題の検討- 3 その他 4 閉会</p>
配付資料	<p>資料1-1 千代田区ジェンダーに関する意識・実態調査(速報値) 資料1-2 令和7年度千代田区ジェンダーに関するヒアリング調査要旨録 資料2-1 第7次計画策定に向けた現状と課題 資料2-2 第6次計画の施策体系と第7次計画に向けた課題 資料3 提言の構成及び今後のスケジュール</p> <p>[参考資料] ・国の動向</p>

【議事要旨】

1 開 会(省略)

2 議題(1)千代田区ジェンダーに関する意識・実態調査結果(速報値)

発言者	内容(要約)
事務局	【千代田区ジェンダーに関する意識・実態調査結果(速報値)】資料1-1、資料1-2のとおり
委員	ヒアリング調査では、私のほうで対応したことをよくまとめていただいたと思う。
坂本会長	家族のあり方や職場環境には多様な課題が存在し、特にノンシスジェンダーの方々は他の人よりも困難を抱えやすい状況がある。特に働く場面や家庭の課題については岩崎委員の意見が参考となった。

発言者	内容(要約)
委員	区民からの相談で、千代田区特有の課題や特徴がいくつか指摘された。シングルマザーが仕事と家庭を両立している事例が多く、家庭に関する話題が今回特に多かったことが印象的だった。
委員	トランスジェンダーの方が学校に通う経験から、多様な家庭や価値観を学ぶことの重要性を実感した。自分の家庭だけでなく、さまざまな家庭や感覚を知ることで視野が広がると感じた。
坂本会長	家庭内で傷つく人が多く、家族関係の相談が多いことから「家庭の平和」の重要性も改めて感じた。千代田区では女性会議の卒業生が地域活動に積極的に参加しており、その取り組みについてもヒアリングを行ったが、これについてはいかがか。
委員	女性会議は社会活動のイメージがあったが、実際は町会の祭りなど男性中心の社会で高齢者が多く、新しい参加者や働く人が入りにくい状況がある。千代田区は地価が高く、昔からの住民と新しい住民の間で状況が異なり、地域のつながりを築くことが課題となっている。
委員	町会で女性の声が十分に反映されていないという課題があり、町会との関係性に苦勞している意見があった。アンケートでは「社会通念・慣習・しきたり」や「社会全体として」男性優位と感じる回答が目立ち、不平等感の背景をさらに分析する必要性を感じた。
坂本会長	今出た話の中で気になるキーワードや、第6次もしくは第7次で強調したいことがあればぜひお聞かせ願いたい。新しい自治のあり方は求められていると思う。女性の意見が地域づくりにどう活かされるのかという点においては、まだまだ課題があると思う。
委員	地域活動への参加については、男女の違いだけでなく世代間格差も課題であると感じた。若い世代は仕事が忙しく自治会に関わりにくい傾向があり、町会・マンション理事会・消防団など地域の役割や連携が十分に整理されていない。今後の課題だと感じた。
委員	町会への新住民の参加が少なく、世代間の格差や住民同士の軋轢が課題となっている。町会は災害時など地域のネットワークとして重要だが、若い世代との連携や意思疎通が難しい状況がある。性別だけでなく、経済的な要因や多様性の観点からも、家庭や地域で全員が尊重される社会を目指す必要がある。
坂本会長	地域参加や政策立案をしている少数派の声を拾っていく大事さと、男女という性差が起因した構造的な課題なのか、それでも別の要素も含まれた課題なのかということは私たちもこれから整理することが必要だと聞いていて思った。

議題(2) 第6次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」各目標に対する現状と課題分析

発言者	内容(要約)
事務局	【第6次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」各目標に対する現状と課題分析】資料 2-1、2-2のとおり

議題(3) (仮称) 第7次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」策定に向けた提言の構成について

発言者	内容(要約)
事務局	【(仮称) 第7次千代田区ジェンダー平等推進行動計画」策定に向けた提言の構成について】資料3のとおり
坂本会長	今年度はあと2回会議を予定しており、委員の知見を集めて第7次行動計画(2027年

発言者	内容(要約)
	<p>度～2032年度)を策定する方針。この計画は区役所全体の部署を横断する6年間の長期計画となるため、現在直面している課題の解決だけでなく、6年後を見据えたテーマ設定も重要である。</p> <p>会議では、国の第6次男女共同参画基本計画の策定状況や新法(困難な課題を有する女性支援等)など、国の動向も参考資料として提示しているが、区は国の計画や根拠法を順守しつつ、区独自の実情に合った重点項目を抽出し、計画に盛り込む必要がある。国の計画の全てを取り入れる必要はないが、千代田区にとって重要なテーマを選定することが必要。</p> <p>また、計画策定にあたり「外せない項目」と「外せる項目」の整理を行い、委員から「ぜひ盛り込んでほしい内容」について意見を募る予定。性差による構造的な課題だけでなく、性差以外の要因による社会的不利益や千代田区特有の課題についても幅広く議論、守備範囲を明確にしていくことが求められている。次回会議では具体的な提言の内容についても検討する予定である。</p>

議題(4)意見交換(グループワーク)-第7次計画に向けた課題の検討-

発言者	内容(要約)
コンサル	資料のとおり
オンライングループ	<p>オンラインのグループでは下記の内容が特に重要な事項として挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難を抱える女性への支援は今後さらに重要。女性支援新法の成立を受け、第7次計画にもこの視点を盛り込む必要がある。 ・千代田区は学校・企業・歴史ある地域社会が共存する地域であり、企業や地域社会、学校教育への働きかけを継続することが求められる。特に企業ではアンコンシャス・バイアスが根強く、家庭では意識が浸透しつつあるが、企業側の意識改革が課題。 ・LGBTQ への配慮については、防災や医療分野で具体的なマニュアルが不足しており、今後の取り組み強化が必要。 <p>また、共同親権の開始に伴い、父母双方が平等な立場で親となることの推進も重要な課題である。</p>
2グループ	<p>2グループでは、不平等感の具体的な原因を明らかにする必要性について議論があった。漠然とした不平等感なのか、実際に根拠があるのかによって対策が変わるため、アンケート項目もより俯瞰的に設計する必要があるとの意見が出た。また、第7次計画では理想的な労働のあり方を目指す一方、現実の不平等も踏まえた対策が求められるという意見もあった。</p>
1グループ	<p>1グループでは、人権尊重と多様性の理解が重要であり、都近郊では格差が拡大している点が課題として挙げられた。女性が虐げられている現状があり、生活困難な女性への支援は取組を継続すべきである。家庭・職場・地域社会での男女間の意識のずれを解消することが大きなポイントであり、そのためには若年層、特に小学校段階からの教育や意識づけが必要という意見もあった。また、防災や社会的課題への対応として、世代間のネットワークづくりも今後の重要な課題であると思う。</p>

5 その他(事務連絡のみ・省略)

6 閉会